

当校の学生（実習生）、卒業生の評価ならびに 学校の特長の認知度調査

谷口奈瑠美*1 本多史明*1 財津真人*1
佐々木裕司*1 吉野裕之*1 藤原 直*1

要旨：玉野総合医療専門学校（以下、当校）の理学療法教育において、社会人基礎力を向上させることが出来ているか、また、養成校としてどんな特長を持ち、どんな印象を与えているのか知ることを目的とした。そして、結果を今後の学内教育に反映させ、理学療法士養成の一助とすること、また、その調査結果を当校の広報に使用することを目的とした。令和5～6年度の実習依頼施設ならびに令和2～4年度の就職施設110施設にアンケート調査を郵送にて依頼した。そこに勤務する5年以上の理学療法士（当校出身者を除く）に対し、アンケート調査を行った。アンケート項目は、Ⅰ. 属性、Ⅱ. 当校の学生（以下、実習生）の評価、Ⅲ. 当校の特長、Ⅳ. 当校出身の理学療法士（卒後3年未満）の評価とし、社会人基礎力の項目は評価となる①主体性と②働きかけ力を「前に踏み出す力」、③課題発見力と④想像力を「考え抜く力」、⑤コミュニケーション力と⑥柔軟性を「チームで働く力」の3つのカテゴリーに分類した。アンケート調査の結果、当校の実習生、卒業生は一貫してチームワークの能力要素が高い傾向にあることが分かった。知識、技術については実習生、卒業生ともに相応のレベルであることが分かった。当校の特長については分からないとの回答が多かった。この結果を踏まえて、今後、学内教育において、引き続き、社会人基礎力を向上させ、知識、技術を兼ね備えた人材養成をしていく必要がある。また、広報戦略として臨床で働く理学療法士に当校の特長を広く周知することで受験生、入学者増加に繋がることを期待したい。

キーワード：社会人基礎力、理学療法教育、実習生、卒業生、認知度調査

はじめに

玉野総合医療専門学校（以下、当校）理学療法学科は開設から23年目を迎え、多くの卒業生を輩出してきた。卒業生の多くは病院・施設へ勤務し、日々、理学療法業務に従事している。理学療法の対象は老若男女問わず、疾患も多岐にわたる。中には、中・高生を担当している者もいることから、入学した学生の話から卒業生の活躍を知ることがある。当校受験者・入学者の中には、担当理学療法士に憧れを持った、当校出身の卒業生に担当してもらい理学療法士になりたいと思うようになった、養成校選びの際に当校を勧められたなど、入試の面接や入学後の面談などで耳にすることが増え、卒業生の活躍が契機となっている。

そこで、当校出身の卒業生の社会人基礎力の評価を当校の実習施設、ならびに卒業生の就職先の理学療法士に依頼することとした。

*1 玉野総合医療専門学校 理学療法学科

社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱したものである¹⁾。それ以降、医療現場や看護教育においても、社会人基礎力をテーマとした研究が散見されるようになってきた^{2~4)}。そこで、当校の理学療法教育においても社会人基礎力を向上させることが出来ているか、また、養成校としてどんな特長を持ち、どんな印象を与えているのか知ることが本研究の目的とした。そして、結果を今後の学内教育に反映させ、理学療法士養成の一助とすること、また、その調査結果を当校の広報に使用することを目的とした。

方法

当校の令和5・6年度の実習依頼施設ならびに令和2~4年度の就職施設110施設にアンケート調査を郵送にて依頼した。そこに勤務する経験年数5年以上の理学療法士（当校出身者を除く）に対し、アンケート調査を行った。本調査は、玉野総合医療専門学校倫理委員会の承認を得て（研究計画番号：2023006）実施し、研究への参加は研究に同意した者が匿名にて参加できるようにした。アンケート項目は、Ⅰ. 属性、Ⅱ. 当校の学生（以下、実習生）の評価、Ⅲ. 当校の特長、Ⅳ. 当校出身の理学療法士（卒後3年未満）の評価とし、肯定的評価を5、否定的評価を1とした5段階尺度とした。また、項目内容によっては摘出法による回答を含めた。調査方法はGoogle formsにてアンケートを作成し、web上でQRコードから回答してもらった。

実習生と卒業生の評価項目は経済産業省が提唱している社会人基礎力の12の能力要素から抜粋した主体性、働きかけ力、課題発見力、想像力、発信力、傾聴力、柔軟性とした。発信力、傾聴力の2つはコミュニケーション力を示す項目であるとされる⁵⁾ため、本調査では統合して、コミュニケーション力とした。また、項目は主体性と働きかけ力を「前に踏み出す力」、課題発見力と想像力を「考え抜く力」、コミュニケーション力と柔軟性を「チームで働く力」の3つのカテゴリーに分類した（表1）。当校の特長については学校案内の中からキーワードをもとに項目を作成した（表2）。さらに知識、技術についても評価項目に加えた。アンケートの属性は単純集計し、実習生、卒業生の評価については中央値、四分位範囲を算出した。実習生、卒業生の社会人基礎力についてはそれぞれの3つのカテゴリー比較をフリードマン検定多重比較Holm法にて解析した。実習生と卒業生の社会人基礎力、知識、技術の比較はマンホイットニー検定を行った。また統計ソフトはMicrosoft Excel 2019（アドインツールHAD17_104）を使用し、統計学的有意水準は5%未満とした。

表1 社会人基礎力12の能力要素¹⁾

3つの能力	12の能力要素	
前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力（多様な人々とともに、目標に向けて協力する力）	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

表 2 実習指導者が捉えている当校の教育の特長（複数選択）

質問項目	
1	スポーツ系理学療法学に特化している（テーピング技術習得含む）
2	地域理学療法学に特化している
3	理学療法士資格取得に対し，スマコク（国家試験支援システム）の導入や早期からの学習支援に力を入れている
4	学内教育での学生指導（社会人基礎力の習得，向上）は学年担任制，グループ学習担当制，卒論ゼミ制により複数の教員が関わりを持つことで学生指導の連携がとれている
5	臨床実習中の学生対応（実習地との連携，不測の事態への対応力，学生へ適切な指導等）
6	実習中の環境調整（宿舍の確保，宿舍への移動費，交通手段等）
7	客観的臨床能力試験（OSCE）にあたり，検査測定の見学・補講に重点を置いている
8	専門理学療法科目は臨床に携わっている専門性を持った理学療法士に講義を担当してもらっている
9	卒業論文作成が科目配置されていることにより，研究のノウハウを知っている
10	その他の資格取得支援（スポーツトレーナー，レクインストラクター，住環境コーディネーター，認知症ライフパートナー，メイクセラピー，アロマセラピー）
11	部活動や学校行事が盛んであることにより，異年齢との交流における人間関係の構築や自己肯定感や責任感，連帯感の育成が来ている
12	分からない（特になし）

結果

研究同意の得られた 75 名から回答があった。

1. 基本情報調査

基本調査において，理学療法士免許を取得して 5 年以上経過した者を対象とした結果，10 年以上の経験を有する者が 72%（54 名）を占めていた。また，職場での役割は部署の責任者や主任，副主任が半数以上を占めており，責任ある立場の人が回答していた（表 3）。当校の実習生を受け入れたことがある施設は 90%以上（68 件）であった。また，卒業生（卒後 3 年未満の者）が在職している施設が 68%（51 件）あった（表 4）。

表 3 回答者の基本調査 (n=75) (②は複数回答)

①免許を取得してからの年数	5年～9年目	21	28.0(%)
	10年～14年目	26	34.7(%)
	15年～19年目	9	12.0(%)
	20年～25年目	12	16.0(%)
	26年目以上	7	9.3(%)
②職場での役割	部署の責任者	26	32.9(%)
	新人指導の担当	17	21.5(%)
	部署の主任	11	13.9(%)
	その他	9	11.4(%)
	一般職員	8	10.1(%)
	部署の副主任	4	5.1(%)
	病棟の担当者	2	2.5(%)
	臨床実習指導責任者 (担当)	2	2.5(%)
			回答者数(%)

表 4 当校の実習受け入れおよび卒業生の就職状況

	している	していない
実習の受け入れ	68 (90.7%)	7 (7.9%)
卒業生の就職	51 (68%)	24 (32%)
回答者数(%)		

2. 社会人基礎力の評価

①実習生と卒業生の社会人基礎力の項目ごとの比較

実習生の受け入れをしていると回答した 68 名が実習生の評価として、社会人基礎力となる 3 つの能力項目について比較した結果、「前に踏み出す力」と「考え抜く力」に比べ、「チームで働く力」の評価が高かった (表 5)。当校の卒業生が就職していると回答した 51 名が卒業生の評価についても「前に踏み出す力」と「考え抜く力」に比べ、「チームで働く力」の評価が高かった (表 5)。

表 5 実習生と卒業生の社会人基礎力の項目ごとの比較

	1) 前に踏み出す力	2) 考え抜く力	3) チームで働く力	P 値	多重比較
実習生 (n=68)	3 (2-3)	3 (2-3)	3 (3-4)	0.00	1) <3), 2) <3)
卒業生 (n=51)	3 (3-4) 未回答 2	3 (3-3) 未回答 1	4 (3-4)	0.00	1) <3), 2) <3)

中央値 (四分位範囲)

②社会人基礎力、知識、技術についての実習生と卒業生の比較

実習生と卒業生の社会人基礎力、知識、技術の比較した結果、社会人基礎力の評価である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」のすべての項目において、実習生に比べ、卒業生の方が評価が高かった (表 6)。また、知識についても実習生に比べ、卒業

生の方が高かったが、技術については差は認められなかった（表 6）。

さらに、次に、知識、技術について、得意な分野があるかについては実習生、卒業生ともに「特にない（分からない）」が最も多く、次いで「運動器」と回答した者が多かった（図 1, 2）。

次に社会人基礎力、知識、技術のすべての項目の中で当校の実習生、卒業生の評価が高いものについて問うと「チームで働く力」と回答した者が多かった（図 3, 4）。

表 6 社会人基礎力、知識、技術についての実習生と卒業生の比較

項目	実習生(n=68)	卒業生(n=51)	P 値
1) 前に踏み出す力	3 (2-3)	3 (3-4) 未回答 2	P<0.01
2) 考え抜く力	3 (2-3)	3 (3-3) 未回答 1	P<0.05
3) チームで働く力	3 (3-4)	4 (3-4)	P<0.01
4) 知識	3 (2-3)	3 (3-4) 未回答 2	P<0.05
5) 技術	3 (3-3)	3 (3-4)	0.387

中央値（四分位範囲）

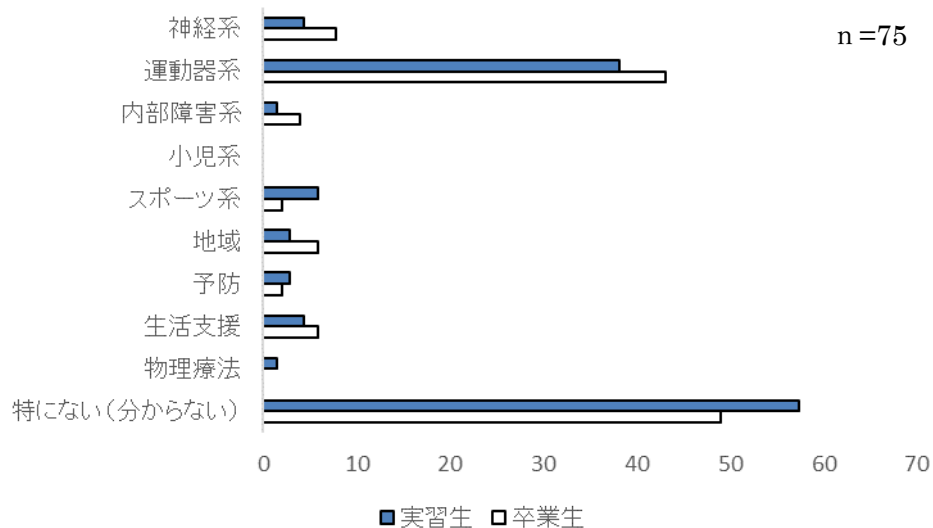


図 1 得意な分野の回答数（知識面）（複数選択）

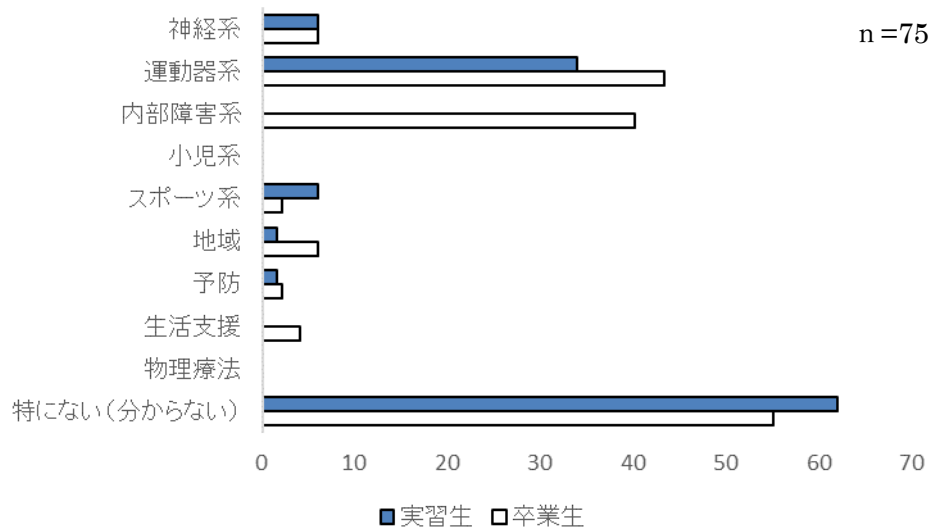


図2 得意な分野の回答数（技術面）（複数選択）

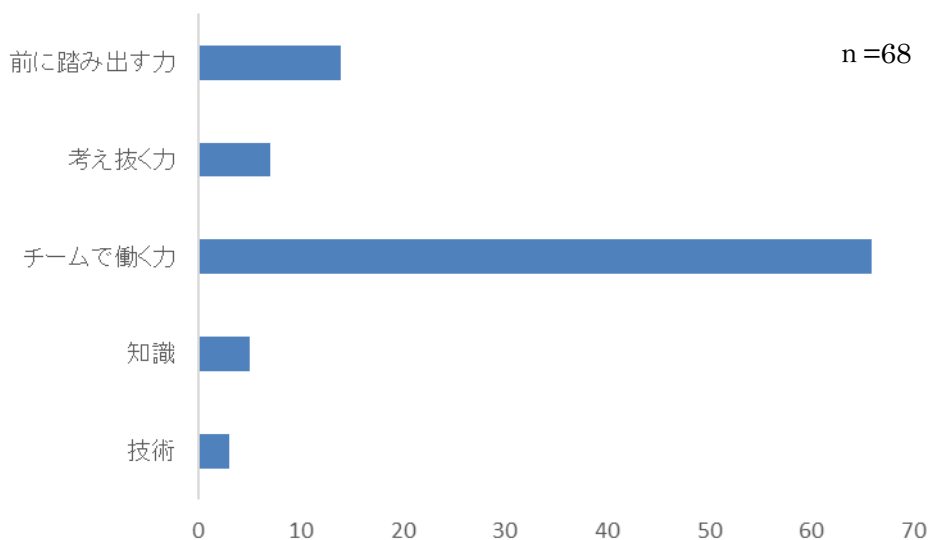


図3 能力が高いと思われる項目（実習生）（複数選択）

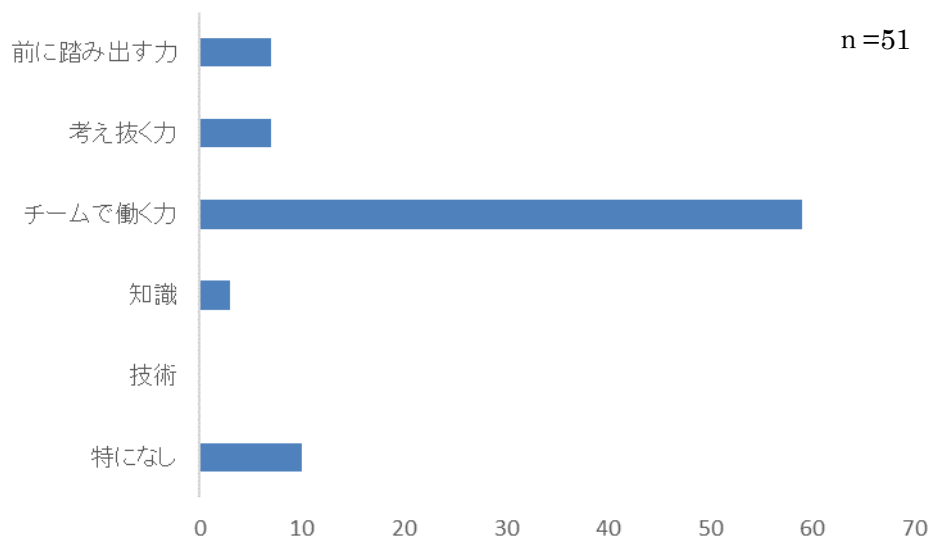


図4 能力が高いと思われる項目（卒業生）（複数選択）

③回答者が捉えた当校の特長

当校の特長や印象について選択項目を回答した結果については、特になし(分からない)と回答した者が一番多く、次に当校教員の臨床実習中の学生対応と回答した者が多かった(図5)。

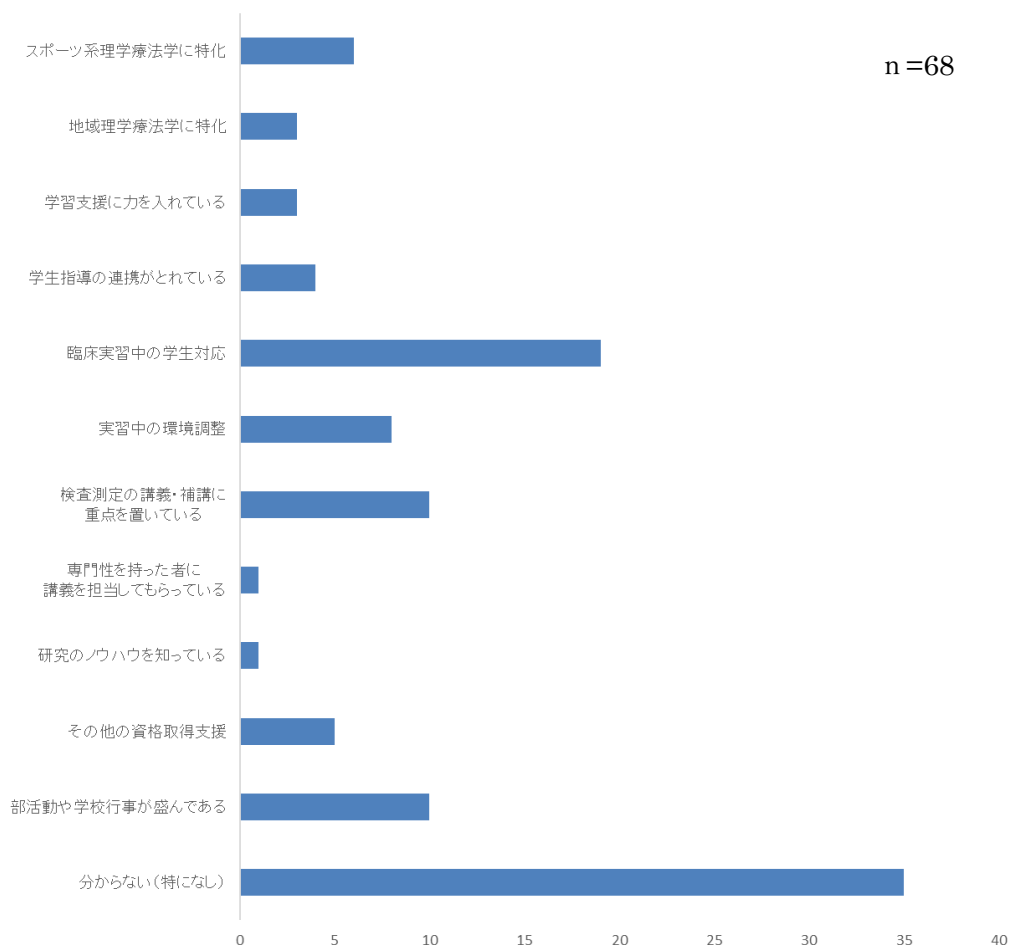


図5 当校の特長についての回答数（複数選択）

考察

当校はどのような人材を養成出来ているのかを知ることを目的に社会人基礎力から6つの項目を抜粋し、医療人、理学療法士としての適性、知識、技術についてアンケートを実施した。

当校の実習施設、卒業生が就職している施設に勤務する5年以上の臨床経験を有する理学療法士75名から回答があり、そのうち過半数が10年以上の臨床経験を有する役職者であった。

実習生の社会人基礎力の項目において、他の項目に比べて「チームで働く力」の評価が高く、コミュニケーション力、柔軟性が他の項目に比べ、高いことが分かった。当校のオープンキャンパスの参加者のアンケートや入試の面接において、当校の特長に「教員と学生との距離が近い」「教員や学生達が親しみやすい」などと回答する人が多い。学内では同世代のみの対人関係ではなく、講義以外に講義前の準備や片付け、学校生活、ボランティア活動、学校行事等において、教員や他学科の教員、非常勤講師、地域等の幅広い年代の

方とコミュニケーションを取ることが多い。北島ら²⁾によると「学校の担任やアドバイザーの教員に相談する」「授業の中でロールプレイする」「授業の中でディスカッションする」これらの日常生活経験は社会人基礎力に影響すると述べている。このことから、当校の学校教育でもこのような場面と同様の経験を重ねていると考えられ、今回の調査結果とも合致している。また、実習中においても患者や家族、多職種の職員との関係においてもコミュニケーションを取る場面が多く、その能力は学内教育を問わず、学外教育においても日々、培われているのではないかと考える。さらに、サークル活動、アルバイトをしている学生もおり、コミュニケーションスキルを磨くことが可能である。石川ら³⁾はサークル活動を行っている学生はコミュニケーション力が高いと述べている。当校ではサークル活動に参加している学生が多く、サークル活動をすることによって得た仲間を通じて、コミュニケーション能力を高めチームワークを育てているといえる。

次に実習生の知識、技術についての評価尺度は「3」であった。このことから、実習生として相応のレベルであるといえる。また得意分野については「特にない（分からない）」の回答が多く、次に運動器系であるとの回答が多かった。(図1) 理学療法カリキュラムの中で、運動器系疾患は他の疾患に比べ、イメージしやすく、学生自身の既往歴にあるケースも多い。よって、学習に意欲的に取り組み、知識、技術の定着へとつながっているのではないかと考える。また、当校での実習終了後の症例報告会では運動器疾患の症例発表の割合が高い。つまり、臨床実習においても運動器疾患を学ぶ機会が多いため、学生自身の学習時間は運動器疾患の学習に割く時間が多くなっているのではないかと考える。

次に卒業生の社会人基礎力の項目において、すべての項目は実習生に比べて評価が高く、また「チームで働く力」については他の項目に比べて高いことが分かった。コミュニケーション力、柔軟性の高さについては、前述した実習生の評価結果から、引き続き、高い評価を受けていることが分かる。卒業後、臨床に携わる理学療法士はチーム医療の一員として、日々、対象者に向き合っている。よって、業務の中でチームワーク力を引き続き、養っていると考える。また、「前に踏み出す力」「考え抜く力」は実習生よりも卒業生の評価が高くなっていることについては、実習生の時と比べて、自らの判断で対応する力が求められるようになり、問題解決に向かう姿勢や業務の工夫など日常で必要となり、能動的に業務を遂行するようになる。北島ら²⁾は、社会人基礎力は「アクション」(前に踏み出す力)、や「シンキング」(考え抜く力)に含まれる能力要素にみられるように、課題に対し自律的、能動的に関与する意味を含むとしている。また、塚本ら⁶⁾は、就職後1年以上就業を継続できた新卒看護師は、看護専門職者としての自律的な態度を獲得し、適切に自己を客観視し、自立した社会人としての責務を理解していたと報告している。今回の調査結果から、当校の卒業生も同様に就職後、社会人基礎力が向上していると言える。経済産業省が「人との交流や異質な世界との出会いや評価を体験させる過程こそが社会人基礎力育成の過程そのものである」と述べており⁵⁾、医療、理学療法場面の経験はまさに社会人基礎力向上の礎である。

また、卒業生の知識、技術についての評価尺度は「3」であり、経験年数相応のレベルであることが推測できる。知識については、実習生の評価尺度より卒業生の方が高くなっていた。実習終了後、知識については国家試験対策で培われたものであることが考えられ、卒業教育においても引き続き、知識の習得に繋がっているのではないかと考える。次に得

意な分野については実習生の評価と同様に「特になし（分からない）」の回答が多かった。次いで運動器系であると回答された。さらに運動器系の分野と回答した割合は実習生の評価よりも高くなっていた。当校の卒業生の就職先は整形外科病院が多いこともあり、運動器症例に関わっていることが窺える。また、日本理学療法士協会の臨床実習ガイドライン⁷⁾において、実習生が実施できる理学療法行為の範囲と水準が定められていることから、項目によっては指導者の補助として実施されるものや見学にとどめておくべき項目があるため、入職後も引き続き独立して理学療法業務が可能になるまで慎重に新人教育が進められていることが推測できる。また、運動器疾患はその他の疾患に比べ、クリニカルパスを導入し理学療法を進めていると考えられるため、新人理学療法士が担当するケースが多いのではないかと考える。

病院や施設で理学療法士として勤務する上で「社会人基礎力」の3つの能力（12の能力要素）は、臨床において必要な能力であり、あわせて理学療法の知識、技術を兼ね備えた人材養成が重要である。今回の結果からは、十分な能力を持った人材養成ができていないと言えないため、引き続き、学校教育における指導の必要性がある。

最後に当校の特長についての回答は、「分からない（特になし）」が多かった。この結果から実習生や卒業生を通じて当校の特長を窺えることは困難であったことが分かった。次いで、「臨床実習中の学生対応（実習地との連携、不測の事態への対応力、学生へ適切な指導等）」の割合が多かった。これは、年に1回実施している実習指導者会議において、実習地の指導者に実習地との連携や不測の事態への対応についての相談、連絡を密にお願いしていることや事例検討で実際の対応について報告をしていることから周知されているのではないかと考える。今回の調査結果から、当校の特長について、他の養成校出身の理学療法士には知られていないことが分かった。受験生の多くが自身のケガや家族の病気により理学療法士を知り、入学の動機にはお世話になった理学療法士の存在が入学の動機となっているケースが多い。その契機となっている多くの理学療法士に当校の特長を知ってもらい、幅広く広めてもらえるよう、広報活動を展開していく必要がある。

本調査は当校の実習契約施設を中心に過去3年間の卒業生の就職施設に研究協力を依頼した。よって、調査集団が小さく、十分なサンプル数を得ることが出来なかった。当校の実習生、卒業生は一貫してチームワークの能力要素が高い傾向にあり、知識、技術面においては実習生、卒業生として相応のレベルであることが分かった。この結果を踏まえて、今後、学内教育において、引き続き、社会人基礎力を向上させ、知識、技術を兼ね備えた人材養成をしていく必要がある。また、広報戦略として臨床で働く理学療法士に当校の特長を広く周知することで受験生、入学者増加に繋がることを期待したい。

謝辞

本稿を終えるにあたり、アンケートに協力してくださいました皆様に深く感謝いたします。

文献

- 1) 経済産業省ホームページ 政策について 社会人基礎力（オンライン）,
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> （参照 2023-11-29-16:20）
- 2) 北島洋子, 細田泰子, 星和美: 看護系大学生の社会人基礎力と看護実践力および日常生活経験の関係.
日本看護学教育学会誌 Vol.22 No.1: 1-12, 2012
- 3) 石川美智子, 板倉朋世, 松本明美: 看護大学に在籍する学生の課外活動と社会人基礎力との関連性.
獨協医科大学看護学部紀要 Vol.7: 11-21, 2013
- 4) 伊藤耕嗣, 鄭佳紅, 千葉武揚 他: A 看護系大学生の社会人基礎力と日常生活経験との関連.
日本ヒューマンケア科学会誌第 13 巻第 1 号: 15-22, 2020
- 5) 経済産業省編: 社会人基礎力 育成の手引きー日本の将来を託す若者を育てるために (初版), 朝日新聞出版, 東京, 2010
- 6) 塚本友栄, 舟島なをみ: 就職後早期に退職した新人看護師の経験に関する研究: 就業を継続できた看護師の経験との比較を通して.看護教育学研究 17 巻 1 号: 22-35, 2008
- 7) 臨床実習教育の手引き (第 6 版), 公益社団法人 日本理学療法士協会, 東京, 2020

添付資料①

I アンケート調査について

1. 理学療法士の免許を取得してから何年目になりますか
2. 職場での役割を教えてください(複数選択可)

II 職場で玉野総合医療専門学校(以下、本校)の実習受け入れをしていますか、また、実習受け入れをしていましたか 実習生の社会人基礎力について

1. 主体性について(自らやるべきことは何かを冷静に見極め、積極的に物事に進んで取り組む力があるか)
2. 働きかけ力(リーダーシップ力)について(「やろうじゃないか」と周囲に呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていくことができるか)
3. 課題発見力、計画力について(問題解決力があるか)
4. 想像力(新たなアイデアから新たな価値を生み出す力)について
5. コミュニケーション力(発信力、傾聴力)があるか
6. 柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)があるか
7. ①学生レベルの知識が備わっているか
②理学療法士の知識面の中で、本校の実習生が得意な分野があるか(複数選択可)
8. ①学生レベルの技術が備わっているか
②理学療法分野の技術面の中で、本校の実習生が得意な分野があるか(複数選択可)
9. 本校出身の卒業生が高いと思われるものを社会人基礎力、知識、技術の中から選んでください(複数選択可)
10. 本校の教育(実習教育)で高いと思われるものを選んでください(複数選択可)

III 職場に本校の卒業生(卒後3年未満の者)がいますか、また、いましたか

卒業生の社会人基礎力について

1. 主体性について(自らやるべきことは何かを冷静に見極め、積極的に物事に進んで取り組む力があるか)
2. 働きかけ力(リーダーシップ力)について(「やろうじゃないか」と周囲に呼びかけ、目的に向かって周囲の人々を動かしていくことができるか)
3. 課題発見力、計画力について(問題解決力があるか)
4. 想像力(新たなアイデアから新たな価値を生み出す力)について
5. コミュニケーション力(発信力、傾聴力)があるか
6. 柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)があるか
7. ①経験年数に見合った理学療法士レベルの知識が備わっているか
②理学療法士の知識面の中で、卒業生が得意な分野があるか(複数選択可)
8. ①経験年数に見合った理学療法士レベルの技術が備わっているか
②理学療法分野の技術面の中で、卒業生が得意な分野があるか(複数選択可)
9. ①本校出身の卒業生が高いと思われる社会人基礎力、知識、技術の中から選んでください(複数選択可)